

わが

「めがねのまちさばえ」による 世界への挑戦

はじめに

鯖江市は、眼鏡フレームの国内生産シェア9割以上を誇る国内随一の産地を支える「めがねのまち」であるとともに、繊維王国「福井」の中核を担う繊維産業や、国内最古の1500年余の歴史と伝統を背景に、業務用漆器で約8割の生産シェアを持つ漆器産業などを有する「ものづくりのまち」です。



鯖江市のシンボル「めがね広告塔」

近年では、眼鏡で培ったチタンの微細加工技術の集積を生かした医療やウェアラブル情報端末などの異分野への進出、海外への進出も視野に

入れた販路開拓などを積極的に支援するとともに、ウェアラブル端末関連をはじめとする次世代を拓くIT企業の誘致や育成に取り組んでいます。

また、これまで市民協働により、まちづくりを進めたことにより、全国に先駆けて「学生連携のまちづくり」「市民主役のまちづくり」「オープンデータによるITのまちづくり」に取り組み、少しずつその成果が見え始めたところだ。これらの取り組みを「鯖江版三本の矢」と位置付け、「若者が住みたくなる・住み続けたいくなるまち」を目指して、日々挑戦していきます。

学生連携のまちづくり

本市は、大学がないまちです。今では、学生が集うまちとなりま

した。そのきっかけは、河和田アートキャンプです。平成16年の福井豪雨で本市河和田地区が壊滅的な被害を受けた際、同地区を元気にしたいと、平成17年から、関西地区を中心とする学生100人程度が、毎年、夏の1カ月間、同地区内の空き家となっていた古民家を拠点にアート活動および地域住民との交流を展開しています。

もう一つは、市長をやりませんか？というキャッチコピーで、全国の大学生が2泊3日の合宿で地域活性化プランを競う「鯖江市地域活性化プランコンテスト」の開催です。本市を舞台にまちづくりに取り組む学生団体が、全国の学生を本市に募って毎年開催しています。今年で10年目となる同コンテストは多様な広がりを見せており、全国各所で実施されると

もに、学生以外を参加対象とするものも実施されています。

その中の「おとな版地域活性化プランコンテスト」からは、まちづくりに最も縁遠いと思われる女子高生がまちづくり活動に参加する事業「鯖江市役所JK課」が誕生し、最近では全国の他自治体などでも同様のプロジェクトが横展開されています。

市民主役のまちづくり

本市では、平成7年にアジアで初めてとなる世界体操競技選手権大会が、平成10年に体操競技ワールドカップ決勝大会が開催されました。この2度の国際大会を支えた市民エネルギーが、大会後の市民のまちづくりへの参画に注がれており、市長就任以来、市民との対話、市民協働のまちづくりを目指し、みんなで作ろうみんなのさばえを第一に掲げて市政を進めてきました。

平成22年4月には、それらの集大成として、市民が市政に主体的

に参加することを目的に「鯖江市民主役条例」を市民提案で制定し、その条例の推進に向け、具体的な取り組みを進めています。その一つである「提案型市民役事業化制度」は、本市が行っている公共的事業の中から、市民が自ら行った方が良い事業を「市民役事業」として、市民提案の下、市民自らが市の事業に直接参画しており、平成23年度には17事業であったものが、平成29年度には3倍近くの45事業を担っていただいております。

オープンデータによる ITのまちづくり

平成22年12月に、W3Cの日本



河和田アートキャンプの拠点施設 Co-minka

サイトマネージャーとW3Cに加盟していた市内IT企業の方から、WEB時代の行政情報に関する提案があったことが始まりです。

平成22年4月に鯖江市民役条例を制定して、市民協働のまちづくりを進めていきましたが、そのためには、市民との情報の共有は欠かせないことだと考えていました。既に取り組んでいたFacebook、Twitter、ブログに続き、WEB時代の新しい情報共有の在り方として取り組むことになりました。全国に先駆けての取り組みだったことから、広く注目していただき、現在では、実験的に公園のトイレ情報、避難所、AED、地域地図、文化財、消火栓、コミュニティバスの位置情報、入札情報など150種類のデータを公開しています。それに伴い、民間で作成されたアプリケーションは120を超えました。

めがねのまちさばえ 世界飛翔元年

世界的な認知を得ている「ものづくりのまち」として、時計ではスイスのバーゼルやラ・ショー・

ド・フォン、刃物ではドイツのゾーリンゲンがあります。高い技術、品質、デザイン性、それを支える地域文化など、さまざまな要素を併せ持つ多様性のある眼鏡を作る本市は、世界的な「眼鏡の聖地」になる可能性を秘めていると考えています。

また、「めがねのまち」として、近年各方面から注目を浴びてお

プロフィール

- ◆ 面積 84・59km²
- ◆ 人口 6万9152人
- ◆ 世帯数 2万3745世帯

〔将来都市像〕世界にはばたく地域ブランド「めがねのまちさばえ」

〔まちの特徴〕眼鏡、繊維、漆器を三大地場産業とするものづくりと、自然を生かした潤いのある人間味豊かなまち

〔特産品〕眼鏡フレーム、繊維、越前漆器、マルセイユメロン、吉川ナス、



鯖江市長
牧野百男



〔イベント〕さばえ菜花まつり、さばえつじまつり、越前漆器まつり、めがねのまちさばえフェスティバル、さばえものづくり博覧会

〔観光〕うるしの里会館、西山公園、西山動物園、ラポーゼかわだ、めがねミュージアム、まなべの館、本山誠照寺

〔プロットコリー、さばえ菜花米、ミディトマト、日本酒（梵・華燭・七ツ星）

り、本市の認知度は着実に上がっています。

本市では、これらの動きをさらに加速させるべく、本市ならではの地域資源をさらに掘り起こすとともに、今年度を「めがねのまちさばえ 世界飛翔元年」と位置付け、地域ブランドとして「めがねのまちさばえ」を国内外に発信し、地域全体のブランド力の向上に全力で取り組んでいきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

歴史ある地場産業の魅力の再発見と 子育てにも魅力あるまちを目指して

はじめに

一宮市は、名古屋市の北西に位置し、名古屋駅から電車で約10分の距離にあります。また、高速道路の4つのインターチェンジと一宮ジャンクションがあり、東西の大動脈である東名・名神高速道路と、太平洋側と日本海側をつなぐ東海北陸自動車道の結節点として道路交通網の重要な位置にあります。

当地域は繊維産業を基盤として栄え、その象徴である「おりもの感謝祭・一宮七夕まつり」は毎年100万人を超える人出でにぎわっています。近年では地場産地「尾州」のブランド化を進めると同時に、企業誘致の推進により産業の複合化を図っています。

平成33年に市制100周年を迎

える本市の特徴的な取り組みとして「尾州産地のブランド化」と「プログラミング教育」をご紹介します。

尾州産地のブランド化

本市を中心とした愛知県尾張西部地域や羽島市などの岐阜県西濃地域は「尾州産地」と呼ばれており、「せんのいちまち一宮」も全国に知られています。ロンドンオリンピックの日本選手団の公式ジャケットやパリコレクションをはじめ欧米のトップブランドにも尾州の生地は採用されています。しかし、素材の産地である「尾州」という言葉も認知度が低く、「びしゅう」と読んでいただけないこともあります。そこで、「尾州」をもっとアピールし、地域活性化につなげようとするさまざまな事業を展

開しています。

その一つが尾州マーク「尾BISHU」によるプロモーションです。尾州産地で織り・編み、整理加工の2工程を経てつくられた生地、またはその生地を使った洋服などに尾州マークを付けて、「尾州」をPRしています。また、日本のファッションの中心地である東京都渋谷区との連携により、尾州の生地では渋谷区のお土産開発を行うなど情報発信にも努めています。

地元一宮でファッションを学ぶ高校生を、毎年東京で開催している「尾州」の展示商談会へ招待し、「尾州」の素晴らしさやファッションへの造詣を深める機会を設けました。また、渋谷区内にある文化学園の学生さんを一宮へ招待し、交流も図りました。そのほかにも、工場に入って織機も操るテキ



現場で一から学ぶ「ものづくりリレー事業」（織物工場にて）

スタイルデザイナーを目指す「ものづくりリレー事業」や素材の重要性を産地の熟練者から直接学び、この世に2つとない洋服を仕上げる「翔工房事業」を実施しています。

未来の「尾州」はもとより日本のファッション産業を担う若者たちの育成を図り「尾州」と「せんのいちまち一宮」を盛り上げていきたいと考えています。

プログラミング教育

本市では、次期学習指導要領で必修のプログラミング教育に関連

し、3つの事業を先行して進めています。プログラミング教育を「ICT機器を活用しながら、協働的な学習やプレゼンなどの表現力を育てる学習に取り組む中で、論理的な思考力を身に付けさせる教育」ととらえています。

1つ目の事業は「プログラミング教育の推進のための研究実践」です。小学校2校と中学校1校を指定し、タブレットPCを各校10台配置し、協働的な学習や表現力を育成する学習に利用することで、論理的な思考力を身に付けさせることを狙いにしたものです。

中でも末広小学校では、平成28年度から始まった文部科学省の事業である「次世代の教育情報化推進事業」に参加しています。

2つ目は、プログラミング的思考力やICTを活用する力といった「情報活用能力の育成」を目指す実践的な研究に取り組んでいます。例えば、6年生の社会科でプログラミングソフトのスクラッチを利用して学習のまとめをクイズ形式で作成したり、5年生の家庭科でタブレットPC内の商品情報を基に児童に買い物の際に必要な情報を選択させたり、学習の成果

をタブレットPCで発表させたりしました。これらの事業では、NPO法人CANVASや愛知教育大学磯部准教授と連携し、内容を深めています。

3つ目は、ソフトバンクグループから人型ロボット「Pepper」が3年間無償で貸し出される社会貢献事業への参画です。同グループのおかげで、市内小中学校27校が、プログラミング教育に取り組むこととなりました。4月の小学校の入学式では「Pepper」が参加しました。また同グループから講師を招き、教員を対象に研修を行いました。今後年間6回の授業を行いました。12月には市内の実施校が作成



今年の入学式には「Pepper」も参加

したプログラミング作品のコンテストを行います。市内で代表になった学校は2月に東京で行われるソフトバンク主催のコンテストに出場し、全国の児童生徒と交流を深める予定です。

おわりに

このほかにも平成27年2月の市長就任以来、小中学生の通院医療

プロフィール

- ◆ 面積 113・82km²
- ◆ 人口 38万6048人
- ◆ 世帯数 15万7001世帯

〔将来都市像〕「木曾の清流に映え、心ふれあう躍動都市 一宮」

〔まちの特徴〕「トカイナカ」（都会の便利さと田舎ののどかさを併せ持つまち）

〔市町村合併〕平成17年4月1日、旧一宮市と尾西市、木曾川町が対等合併
〔特産品〕尾州毛織物、一宮モーニング（喫茶文化）、ドテカラ丼



一宮市長
中野正康



〔観光〕138タワーパーク、真清田神社、妙興寺、浅野公園、萬葉公園、尾西緑道、起宿脇本陣跡、尾張一宮駅前ビル（愛称「i・ビル」）

〔イベント〕おりもの感謝祭・一宮七夕まつり、いちのみやリバーサイドフェスティバル、一宮桜まつり、桃花祭、一宮つじ祭、石刀祭、濃尾大花火、木曾川町一豊まつり、びさいまつり

費の無料化や、小中学校のエアコン空調設備の整備、庁舎会議室を学習室として開放するなど、子育てしやすい環境の整備や、通学路カラー塗装による安全対策などを実施しました。

これからも、暮らしやすい一宮市の魅力を磨き上げ、市内外への魅力発信などを通じて活力あるまちづくりに取り組んでいきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

世界一の〰️とんがった〰️まち別府へ

おんせん県おんせん市 べっぶ

別府市は、大正13年4月に市制施行され、九州の北東部、瀬戸内海に面した大分県の東海岸のほぼ中央に位置し、古くから瀬戸内海を通じて人々の交流や物流が盛んで、九州の東の玄関口として独自の歴史・文化が栄えてきました。

市内には、別府八湯と呼ばれる



4月第1週の週末を中心に各種イベントが開催される「別府八湯温泉まつり」

8つの温泉エリアが点在し、湧出量と源泉数は日本一を誇り、医療・浴用などの市民生活はもとより観光・産業などにも幅広く活用され、日本を代表する温泉地としてにぎわいを見せています。

人口は、県庁所在地の大分市に次いで県内2番目で、市内には3200人を超える留学生が勉学に励んでおり、一般市民36人に対し1人の留学生が暮らす、異文化が溢れた国際色豊かなまちを形成しています。

震災からの復興へ転んで もただでは起きない

本市は、平成28年4月16日に発生した熊本地震により甚大な被害を受けました。その規模は、罹災証明8000件超という数字が物語る直接的な人的・家屋被害にと

どまらず、震災直後から宿泊客のキャンセルが相次ぎ、8日間で推定11万人に達する大きな経済損失が生じるなど、観光地として地域経済の根幹を揺るがす危機的な状況に直面するようになりました。

確かに、地震は恐ろしいもの、いつ起こるか分からないものです。しかし、この危機的状況に直面したことで、官民が心ひとつに結集し、福岡県博多駅での「GO！別府へ行くこうキャンペーン」や「元気な別府のCM広告宣伝」、さらには「プレミアム付きクーポン券」べっぶで飲んで食うべっぶ券「べっぶ復興建設券」の発行など、さまざまな復旧、復興事業にいち早く取り組んだことで、年末年始の宿泊者数は前年比1%増と、奇跡的な回復を図ることができました。

はまだまだ続いており、クラウドファンディングの手法を用いた「湯く園地」計画では、税金を投入することなく全国の皆さまからのご支援により、温泉と遊園地の融合という別府にしかできない夢を実現させます。

今回の地震により失ったものも当然あります。しかし、それ以上に得たものは大きく、市民一人一人に自分たちのことは自分たちでやっつけていく強い自立の意識が生まれ、震災前よりさらに別府は「元気」になっています。

地域資源・観光資源を生かした可能性

別府の資源は温泉！言わずと知れた事実ですが、この温泉の可能性を探るべく、平成28年11月に2日間にわたる「別府ONSENアカデミア」シンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、全国の温泉地首長にご参加いただき、日本再興戦略の重要施策分野の一つとして位置付けられている



全国の温泉地首長が参加して行われた「別府 ONSENアカデミア」シンポジウム

「インバウンド観光」における温泉の役割や外国人観光客が安心して入浴できる仕組みづくりなどを本音で語り合いました。中でも、「TATOO」については、一概に禁止するのではなく、各国の文化や歴史、風習などの違いを相互に理解し、認め合う合理的配慮の取り組みが大切であり、十分な時間を掛けながら努力していくことの必要性を共通認識できたことは大きな成果と言えます。

今年も引き続き第2回「別府 ONSENアカデミア」を開催します。アスリートの競技力向上につ

ながる温泉の成分や効能、入浴方法などのエビデンスを解明し、温泉を活用した医療、健康、スポーツなどへの一般向け活用プログラム「現代版湯治」の確立を目指していきます。

連携協働による『稼ぐ力』

人口減少社会の到来により地域活力の衰退が危惧される中、光り溢れるまちを維持させていくためには定住人口の維持、増加を軸にしながらも、都市部への人口流出に歯止めが掛からない状況の中では、観光振興を柱とする交流人口を増やし、地域の活力を高める「稼ぐ」別府を実現することが重要です。

喫緊の課題は、宿泊者数を増やし、消費単価を上げることですが、行政だけではできない課題解決をスピード感持って実現するため、観光データ分析や観光戦略立案、起業・販路拡大支援など、産業連携による観光とビジネスに関する機能を兼ね備える新組織「BizLINK（ビーズリンク）」の設立を進めています。今後は「BizLINK」を中心に、民間とのコラボレーションを進め、さらには移

住・定住促進、CCR（生涯活躍のまち）などにも積極的に取り組むことで、観光や雇用を活性化し、別府に住みたいと思えるまちにしたいと考えています。

ひとまもり・まちまもり

本市にはもともと恵まれた資源がたくさんあり、自治体間競争に勝ち抜いた皆さんの武器を持っています。この地域の宝を磨き、付

加価値を高めながら守り続けていく「まちまもり」と、市民生活の安全安心を確保し、市民の自立と社会参加を促進する「ひとまもり」の取り組みを積極的に推進することが、市民が幸せを実感できるまち、将来を担う子どもたちが誇りに思うまちの実現につながるものと考えています。全国の観光地のモデルになるまちを目指して実行、実現してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 125.34 km²
- ◆ 人口 11万9309人
- ◆ 世帯数 6万2346世帯

〔将来都市像〕「市民が幸せを実感できるまち」地域を磨き、別府の誇りの再建と新たな誇りの創建

〔まちの特徴〕緑豊かな山々や高原と波静かな別府湾に囲まれ、大地からは「湯けむり」が立ち上り美しい景観を誇る

〔特産品〕竹細工、つげ細工、別府冷麺、



別府市長
長野恭紘



別府とり天、しいたけ、ざぼん漬、ざぼんサイダー
〔観光〕別府八湯温泉、地獄めぐり、別府ラクテンチ、城島高原パーク、地獄蒸し工房 鉄輪
〔イベント〕別府八湯温泉まつり、別府アルゲリッチ音楽祭、べつぷ火の海まつり、べつぷクリスマス Hanabiファンタジア

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。